

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立打上小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 不登校や長期欠席の児童を出さない・つくらない取組を学校が一体となって実施・実現することができた。教職員間の情報共有は密に行うことができおり、一人で抱え込まないチームとしての体制づくりを確立できた。 インクルーシブ教育やSDGsの視点で教育課程を仕組み、周りの人のことも考えられる社会性や自ら進んでいるいるなどに取り組みめる積極性を身に付ける児童を育成することができた。 何事にも「本気」でチャレンジし、友達と仲良く学校生活を送ることができる環境を様々な角度から整えることで、伝統的な打上っ子らしい「真面目で、明るく、優しい、思いやりのある児童」を育てることができた。
------------------	---

2 学校教育目標	地域や仲間を思い 夢に向かって輝く子どもの育成
----------	--------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善を通して、児童の学びを充実させ、表現力を向上させる。 学校生活や体験活動の中で支持的風土を醸成し、児童の人権意識や自己肯定感を高める。 特別支援教育を推進し、児童への支援体制を充実させる。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童が目的意識をもちながら学び合い、自分の考えを深めたり広げたりする授業を行う。自分の考えを表現する場を授業の中に設定する。	○なかよし学習を軸とした授業を展開し、授業で「わかった」「がんばった」と肯定的な回答した児童85%以上	・「唐津の学びスタイル」に合わせたなかよし学習の実践を図り、深い学びへつなげる授業改善を行う。チェックシートを活用して学期毎に振り返る機会を設定する。							学力向上CN(吉田)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳授業の充実と支持的風土の学級経営により、人権意識や自己肯定感、規範意識の涵養ができたと回答した児童80%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・児童の実態に合わせた内容を取り上げ、身近な問題として考えさせるようにする。							道徳教育推進教師・人権・同和教育担当(宮原) 生活主任(浜中)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教職員85%以上	・なかよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・日々の児童観察を大切に、アンケートに表れていない面についても、気になることの早期発見・早期対応に努める。 ・生活指導協議会で気になる児童への対応を共通理解をした上で、組織的な対応を行う。							生徒指導(浜中) いじめ防止担当(吉田)
●健康・体づくり	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童86%以上	・自己肯定感が高まる取組を行い、積極的に教師の話や掲示物等で紹介するなど広報に努める。 ・外部講師を積極的に呼び込み、キャリア教育を充実させる中で、自分の夢や目標をしっかりともてるような取組を行う。							キャリア教育(鶴田) 特活主任(永田)
	○特別活動による自主的で実践的な態度の育成	○「よく見る・よく聞く・よく考える」を合い言葉に、学習や活動に真剣に取り組むことができたと答えた児童85%以上	・活動の前には確認し、意識させ、活動の後には振り返りの場を設けて、頑張りが協力した視点で発表させたり、まとめたりする。 ・授業中の友達の発言をしっかり聴くよう指導し、話す人も相手を意識させる。							特活部(宮崎)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣ができていると回答した児童85%以上	・給食委員会からの放送や保護者への啓発と児童への声かけを頻繁に行う。							栄養教諭(山村) 保健担当(福島)
	○「衛生指導の徹底」	○衛生検査(ハンカチ、ティッシュ、つめ)で、忘れていない児童80%以上	・ほけんだより等で啓発を行う。							
	○体力向上を意識した取り組み	○アンケートで「元気に外遊びや体力づくりができた」と答えた児童85%以上	・体育の行事や授業の中で、児童一人一人があてをもって体力向上に取り組むことができるようにする。 ・健康委員会からの放送や担任からの呼びかけを行い、外遊びを奨励する。							保体部(中尾、前嶋)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。	・時間外勤務時間を月平均30時間以内を目指す。(年間360時間以内) ・業務の精選と効率化を図り、質の高い業務内容を目指す。							服務・業務の効率化担当(坂口)
	○年次休暇の積極的な消化のための意識改革	○個人が持っている年次休暇の消化を30%以上	・定時退勤の推奨する。 ・長期休業中の研修を精選する。 ・行事精選により放課後の時間を確保する。 ・記念日休暇の積極的取得を促す。							服務・業務の効率化担当(坂口)
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○専門性が向上したと回答する職員が70%以上	・研修の充実と実施 ・児童理解による児童についての共通理解							特別支援教育(宮原)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT利活用教育の推進	○1人1台端末活用の推進	○1人1台タブレットを活用できたと答えた児童と教師85%以上	・教職員間でタブレットの活用法を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。							ICT担当(中尾)・各担任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------